

令和4年9月25日  
今週のベストショット



青松園B 三苦ホーネッツ 対 三苦三球会

優勝の可能性を残す三球会を一蹴して優勝を飾った三苦ホーネッツの胴上げ。

写真：雁の巣ライナース 明瀬 旭

**奈多グラウンド** 取られては取り返す展開。勝負の行方は・・・

ブルーマーリンズ (1勝7敗) 0010100 2 中山●一原

奈多サンデーズ (4勝4敗1分) 020107× 10 塚本○一野々下

**3BH**：松園 (ブルー) 近藤 (崇) (奈多サ) **2BH**：松園 (ブルー)

**盗塁**：野々下、古賀 (開) (奈多サ)

試合が動いたのは二回裏。奈多サンデーズ四番八島選手がレフト前ヒットと相手ミスで二進すると、続く五番古賀 (開) 選手が絶妙のセーフティバントで無死一三塁のチャンスを作る。しかし、一塁ランナー盗塁失敗で一死三塁となるも六番近藤 (崇) 選手の三塁打、八番塚本選手のレフト前タイムリーで2点を先取する。三回表、追いつきたいブルーマーリンズは八番末松選手のヒットから無死一三塁を作りWPで1点返すも後続が続かずチャンスを活かせなかった。2点を追うブルーマーリンズは五回表、九番山本選手がセーフティバントで出塁すると3番松園選手のタイムリー三塁打で1点差に詰め寄る。続く四番糸井選手がサードに強烈な打球を放つもサンデーズ八島三塁手の好守が飛び出し追加点を得られず同点に出来なかった。そして六回裏奈多サンデーズは、疲れの見え始めたブルーマーリンズ中山投手を攻め二死一三塁とすると、九番吉岐選手のピッチャー強襲ヒットを皮切りに六番近藤 (崇) 選手まで四球を挟む連続ヒットを放ちこの一回一挙7点を取りシーソーゲームに終止符を打った。ブルーマーリンズは一・三・四・五回とランナーを得点圏まで進めていたので、後1本が出ていれば試合の流れはブルーマーリンズに傾いていたかもしれない。(写真：新町ウインズ 大久保 浩 )



要所を締めるピッチングサンデー塚本投手。



サードゴロを軽快にさばくサンデー八島選手。



粘りのピッチング ブルーマーリンズ中山投手。



サンデー古賀（開）選手による打席前の儀式？



本日猛打賞、奈多サンデー近藤（崇）選手。



三塁打、二塁打のブルーマーリンズ松蘭選手。



激走！！ ブルーマーリンズ末松選手。



確実に・・・ ブルーマーリンズ山本選手。

## 青松園A ジャガーズ快勝！！

塩浜ジャガーズ（3勝5敗1分）1302010 7 立石○ー狩野  
三苦フレンズ（2勝5敗1分）0000100 1 生野●ー御手洗

HR：一ノ瀬、松尾選手（塩浜ジ） 3BH：狩野選手（塩浜ジ）

一回表塩浜ジャガーズは、制球に苦しむ三苦フレンズ生野投手を攻め、四死球で満塁とすると三番立石選手の犠牲フライで1点を先制する。一回裏フレンズは、ジャガーズ立石投手の上々の立ち上がりの前に無失点。二回表ジャガーズは、またしても四死球での満塁から内田選手の犠牲フライで1点を追加。その後も押し出して2点を追加すると、四回表は、一ノ瀬選手のHRで2点を追加する。五回裏フレンズは、御手洗選手がヒットで出塁すると寺山選手のタイムリーヒットでやっとかさ1点を返す。六回表ジャガーズは松尾選手のHRでさらにダメ押し1点を追加する。追いつきたいフレンズだが、ジャガーズ立石投手の好投に阻まれ追加点を奪えずゲームセット。終わってみれば、立石投手が8個の三振を奪う好投でした。（記事・写真：パイレーツ 中島 孝志）



塩浜ジャガーズの立石投手。



三苦フレンズの生野投手。



犠牲フライを打つジャガーズ内田選手。



好守のジャガーズ内田三塁手。



ジャガーズ好返球でタッチアウト。



四回表、HRを打つ一ノ瀬選手。



本日のヒーロー、ジャガーズ立石選手、一ノ瀬選手、松尾選手。

## 青松園B 三苦ホーネッツが令和四年度の和白リーグを制す！

三苦ホーネッツ（9勝1分）05230 10 矢野○ー広木

三苦三球会（5勝2敗1分）00200 2 鮎川●、堺（達）ー荻原、藤澤（康）

HR：広木、西村（三苦ホ）、鮎川（三球会） 3BH：堺（三苦ホ）

2BH：広木、堺、山崎、川原、只松（三苦ホ）

二回表0-0で迎えた三苦ホーネッツは、無死一二塁から九番只松選手の送りバントでチャンスを広げると、迎える打者は長打の期待のかかる一番広木選手。その見事に捉えた打球はレフトの頭上を越えて先制の3ランHRとなりホーネッツが先取点を挙げる。先制はされたがこの試合勝てば優勝の可能性も残っている三苦三球会も負けてはいられない。三回裏、先頭の二番濱口選手がレフト前ヒットで出塁すると、続く打者は三番鮎川選手。ここまで好投のホーネッツ先発矢野投手から、先ほどのホーネッツ広木選手の打撃を凌ぐような会心の打球は左中間に見事スタンドインの2ランHRとなり、三球会がこの回2点を返す。しかし、最後まで調子が上がらなかった三球会先発の鮎川投手はその直後の四回表にも連打により3点を奪われてしまう。対照的にホーネッツ先発矢野投手は三回裏に2点を奪われてからは一人の走者も許さない好投でリードを守り切り、ついに三苦ホーネッツが令和四年度の和白リーグを制した。（記事・写真：雁の巣ライナーズ 明瀬 旭）



三苦ホーネッツ先発の矢野投手。



三苦三球会先発の鮎川投手。



二回表、先制の3ランを放つホーネットス一番広木選手。



二回表、2ランを放つホーネットス三番西村選手。



三回表、適時二塁打を放つホーネットス九番只松選手。



三回裏、2ランを放つ三球会三番鮎川選手。



センターに抜けそうな打球を足で止める矢野投手。



試合終了直後、ホーネットス選手による朝川監督の胴上げ。

